

## 平成28年度全国学力・学習状況調査（4/19）の結果について

## 1 調査の概要

## (1) 調査の目的

本調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としている。

なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。

## (2) 本県の調査実施校数、人数（公立小学校・中学校・義務教育学校・中等教育学校・特別支援学校）

- ・小学校6年生：759校 47,493人
- ・中学校3年生：347校 45,435人

## (3) 調査内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

- ①主として「知識」に関する問題（A）
- ②主として「活用」に関する問題（B）

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ①児童生徒に対する調査
- ②学校に対する調査

## 2 県の結果の公表後の対応

○学力向上実践推進委員会において、全県的な成果や課題の分析、課題に対する指導方法の工夫改善の検討を行う。

○具体的な指導方法の工夫改善をリーフレットにまとめ、学力向上シンポジウムで周知を図り、学校、市町教育委員会の取組を支援する。

（学力向上シンポジウムの開催：平成28年12月15日（木）、姫路市文化センター）

## 3 本県（公立学校）の状況

## (1) 教科に関する調査の状況

○小学校・中学校の平均正答率の状況は下表のとおりである。

○本県の平均正答率は、全国と比較して、いずれも±5%の範囲内にある。

〈平均正答率の状況〉

(%)

	教科等		平成28年度（今回）			H27年度 （全国比較）
			本県	全国	比較	
小学校 6年生	国語	知識	73	73	±0	±0
		活用	58	58	±0	+1
	算数	知識	78	78	±0	±0
		活用	47	47	±0	+2
中学校 3年生	国語	知識	76	76	±0	+1
		活用	66	67	-1	±0
	数学	知識	66	62	+4	+3
		活用	46	44	+2	+1

※学力面において、細かい桁による微小な差異は、実質的な違いを示すものではないため、平均正答率については小数点以下を四捨五入した結果を示している。

(2) 児童生徒の学習や生活に関する意識の状況及び学校の指導の状況（抜粋）

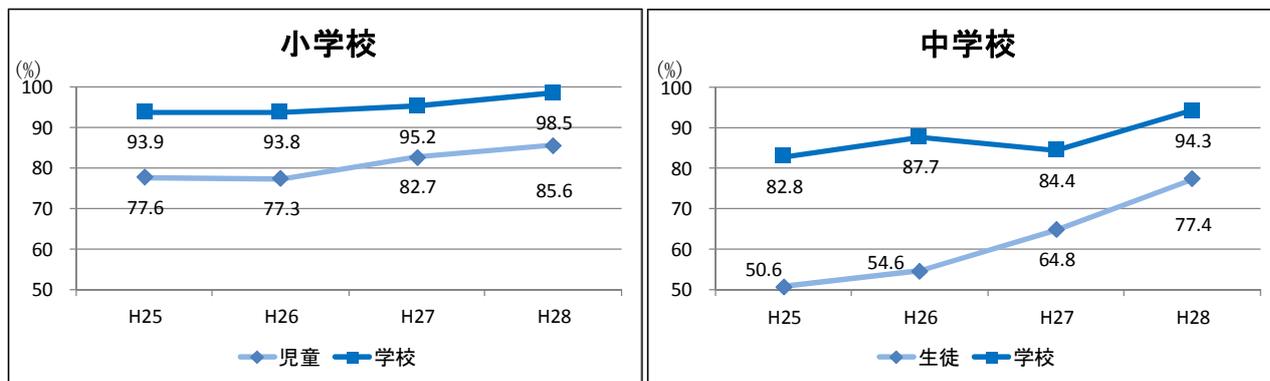
※グラフ中の数値は、いずれも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」など肯定的な回答の合計

①「見通し・振り返り」学習活動の状況

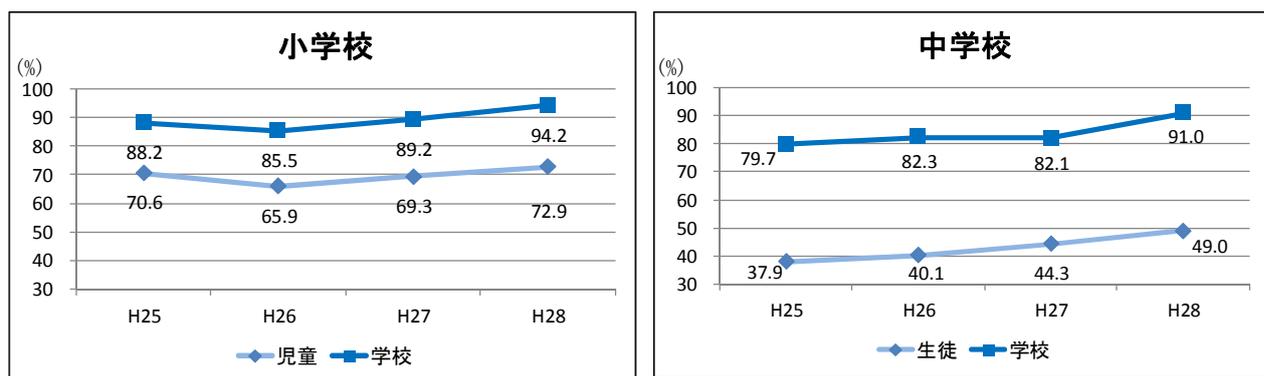
- 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を実施する学校は増加傾向にあり、それに伴い児童生徒の意識も高まり、学校と児童生徒との意識のずれが縮小する傾向にある。
- 授業の最後の振り返る活動を実施する学校は増加傾向にあり、それに伴い児童生徒の意識も高まっているが、学校と児童との意識のずれに、あまり差異が見られない。

ア ※授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を取り入れている学校の割合と、目標が示されていると思う児童生徒の割合の推移

※H25～H27→児童生徒質問紙：授業のはじめに、学校質問紙：授業の冒頭で



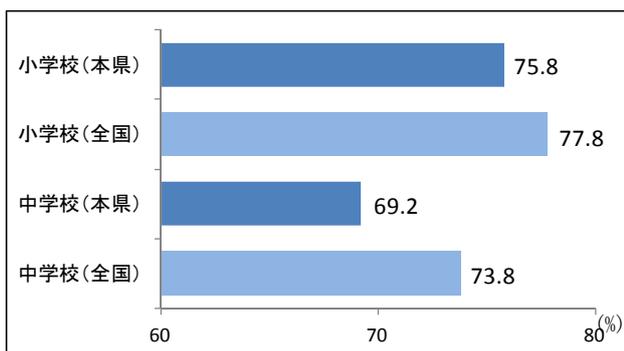
イ 授業の最後に学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れている学校の割合と、活動をよく行っていると考える児童生徒の割合の推移



②主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点による学習指導の改善に向けた取組状況

- 課題に対して、主体的に取り組んだという児童生徒の割合は小・中学校ともに全国を下回っている。
- 課題解決の学習に取り組んだ学校について、小学校は全国を上回っているものの、中学校は全国を下回っている。

ア 前年度までに受けた授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合（新規）



イ 前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた学校の割合

